

令和５年度 学校評価自己評価表（中間評価）

三次市立作木中学校

ミッション	（１）主体的・対話的で深い学びを創造することで、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。 （２）学校・関係機関と協働し、作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさと作木を愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。 （３）コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。	ビジョン	「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～ （１）確かな学力定着をめざし、自ら考え行動し、主体的に学ぶ生徒を育成する。 （２）豊かな心と感性を育て、自分や他者を大切にする生徒を育成する。 （３）基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体をもつくましい生徒を育成する。 （４）ふるさと作木を愛し、グローバル社会の中で、未来を創造する生徒を育成する。 （５）小中一貫教育（さくぎ教育）を更に充実・発展させ、コミュニティ・スクールとして、「地域とともにある学校」づくりを推進する。 （６）業務改善を推進する。
-------	--	------	---

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	自己評価				学校関係者評価		改善策
				評価データ	達成度	評価	結果の説明	評価	コメント	
知	確かな学力定着をめざし、自ら考え行動し、主体的に学ぶ生徒を育成する。	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	◆生徒アンケートの肯定的評価80％以上 ①課題について予想や見通しを立てている。 ②調べたことを図、グラフ、表などにまとめている。 ③自分の考えを積極的に伝えている。 ④根拠を明らかにして相手に伝えている。 ⑤振り返りは理由などを考えている。	生徒アンケートの肯定的評価 平均 81% ①97% ②79% ③90% ④75% ⑤86%	101%	5	・「課題について、予想や見通しを立てている。」について、97%の生徒が肯定的に答えており、ほぼ全生徒に主体的に学習に向かう姿勢がある。 ・「授業では自分の考えを積極的に伝えています。」について、90%の生徒が肯定的に答えており、授業が活発に意見を言い合える場となっている。	A	○アンケートの肯定的評価の割合が高く（特に①と③）生徒が主体的に学んでいることがわかる。 ○家庭学習時間については、自己調整力の育成が目的なので、生徒一人一人が自分なりの目標を決め、それに向かって頑張ることが出来ればよい。 ○学力の分野で、生徒へのアンケート結果を学校評価へ直接反映させることが妥当かどうか疑問である。 ○校舎内に生徒の新聞や研究したことなどが貼られていて、生徒自身の達成感や自信につながっていると思う。 ○自転車通学では、帰宅時間も遅くなると思う。効率的に時間を確保できるよう家族の協力も必要だと思う。 ○生徒アンケートの肯定的評価が81%なのは素晴らしい。学力が県平均以上が68%も良いと思う。課題は、家庭での学習時間、保護者も家庭で勉強しやすい環境を作っていることが大切だと思う。	・これまでの取組を継続するとともに、各教科の「見方・考え方」を働かせ、さらに深い思考を促す発問の工夫を行う。 ・自分の考えについて、根拠を明らかにして伝える等、相手意識を持たせた表現活動を行う。
		○基礎的・基本的な学力の定着	◆三次市学力到達度検査（1・2年）については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト（3年）については県平均以上の生徒の割合65％以上	・5教科×10人＝延べ50教科で県平均と比べると延べ34教科が県平均以上であった。よって、県平均以上の割合は68%	105%	5	・1学期の実力試験について、県平均と本校生徒の5教科の数値を延べ数で比較した。	A	・授業改善を行い、主体的で対話的な深い学びをめざす。 ・未提出の課題があれば、計画的にやり切らせことで、生徒に達成感を持たせる。	
		○自己調整力の育成	◆定期試験前の平均家庭学習時間90分以上の生徒の割合80％以上	・定期試験前の学習時間 1学期期末 30分～60分 52% 60分～90分 4% 90分以上～ 44% ※最近の試験を判断材料とする	55%	2	・データは毎日の記録に基づいたものである。中間試験26%より期末試験44%と多少の改善はみられるが、全く目標数値に達していない。家庭学習時間の課題は非常に大きい。	A	・教育相談・学習相談を充実させる。 ・2学期の中間試験に向け学習面談を行い、家庭学習へのきっかけを作る。 ・試験期間以外でも自主勉強や提出物について個に合わせた働きかけを行う。	
徳	豊かな心と感性を育て、自分や他者を大切にする生徒を育成する。	○生徒指導・教育相談の充実及び主体的な生徒会活動の推進	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合80％以上 ①学校生活は充実している。 ②授業に満足している。 ③部活動に満足している。 ④自分にはよいところがある。 ⑤自分はまわりから認められている。	・アンケート（7月実施）の結果（肯定的評価） ①学校生活は充実している。（96.0％） ②授業に満足している（93.0％） ③部活動に満足している（75.0％） ④自分にはよいところがある（97.0％） ⑤自分はまわりから認められている。（90.0％） 平均 90.2%	113%	5	・生徒アンケートの結果では、平均は90.2%であり、目標を達成している。 ・部活動に関する項目④は75.0%と低いが、学校生活に関する項目①は96.0%と高い。中学校生活については肯定的といえる。	A	○生徒が充実した中学校生活を送っているということがアンケート結果から伝わってきてうれしい。このことが保護者アンケート（中学校の教育に満足）につながっていると思う。 ○生徒の満足度が高いことはいい結果である。 ○この項目は非常に大切。90.2%の数値は素晴らしい。 ○「道徳の時間」の肯定的回答が93%はうれしく思う。先生方が努力されている気がする。	・学級活動や生徒会活動、学校行事等の活動を通して、肯定的評価を行い自己存在感を育てる。 ・部活動では、活動目標を明確にし、前向きに部活動に取り組める環境づくりを行う。
		○道徳教育の推進・充実	◆「道徳の時間」における生徒の授業満足度85％以上	・生徒アンケートの「「道徳の時間」は、心に残ったりためになったりしています。」の結果 1 とても思っている 50.0% 2 かなり思っている 43.0% 3 あまり思っていない 4.0% 4 全く思っていない 4.0% 肯定的回答 93.0%	109%	5	・生徒アンケート結果では、肯定的な回答の数値が93%であり、目標を達成することができた。	A	・引き続き、生徒の実態に応じた道徳の授業を行う。否定的な回答をしている生徒に対して、ワークシート・発問・教材等の工夫を行い、道徳的価値についての思考が深まるようにする。	
体	基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体をもつくましい生徒を育成する。	○基礎体力の向上	◆計画的指導により、新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目の割合65％以上	・県平均及び全国平均値以上の割合 1学年：31.3% 2学年：43.8% 3学年：62.5% ・新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目は、45.83%であった。	71%	3	・全体的に県及び全国を下回っている。特に筋力、筋パワー、筋持久力、全身持久力に課題がある。	A	○基礎体力の向上について、作木中3年間の取組の成果が3年生の姿にあらわれているのだとしたら、1・2年生も今後に期待したい。 ○家庭学習開始時刻や就寝時刻が決められない原因は？もしかすると設定の仕方に改善が必要なのかもしれない。 ○それぞれの家庭の事情があり、なかなか統一が難しいところがある。そのため目標を立てにくい。大きな課題である。 ○地域と協力してスポーツクラブなどができると良いと思う。 ○新体力テストの数値が低いですが、生徒たちが健康で元気ならそれでよいと思う。 ○学習の開始時刻を決めるのは難しいことだと思うが、それでも半数の生徒ができていないことは評価できる。	・新体力テストの結果を掲示し、生徒一人一人の体力向上に対する意識を高める。 ・保健体育科の授業において、各領域に関連する課題の克服に向けたサーキットトレーニングを計画し継続的に取り組む。 ・全校で朝練習を実施し、持久力の向上を目指す。
		○基本的な生活習慣の確立	◆3点固定の出来ている生徒の割合70％以上 ①家庭学習の開始時刻 ②就寝時刻 ③起床時刻	・アンケート（7月実施）の結果（肯定的評価） ①家庭学習の開始時刻を決めている。（50.0％） ②就寝時間を決めている（68.0％） ③起床時間を決めている。（86.0％） 平均 68.0%	97%	4	・生徒アンケートの結果では、平均68.0%であり、目標値を達成していない。 ・就寝時間、家庭学習の固定ができていない生徒の割合が多い。	A	・D-Life（生活・学習記録ノート）等で自己の生活をふり振り返り、生活習慣の改善につなげる。 ・教育・学習相談を通して、生活・学習習慣について指導・助言を行い、生徒の自己指導能力を育てる。	
信頼される学校	小中一貫教育（さくぎ教育）を更に充実・発展させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	○積極的な情報発信	◆保護者の学校評価アンケートの肯定的評価85％以上 ①作木中学校の教育に満足している。 ②作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。	・保護者の学校評価アンケート「作木中学校の教育に満足している」の結果 ①作木中学校の教育に満足している。96.0% ②作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。96.0% 肯定的回答 96.0%	113%	5	・目標への達成度は113%となり、目標を十分に達成することができた。 ・「あまりあてはまらない」は①②とも4%いること、「よくあてはまる」が①②とも44%であることが課題である。	A	○「作木に愛着を感じ誇りに思う」と答える生徒が100%、作木中学校のふるさと学習の成果で大変ありがたいと思う。 ○多忙な中で先生方が一人ひとりの生徒にしっかりと向き合ってくれている、期待をかけてくれているので、ありがたい。 ○保護者の学校評価、生徒アンケートの結果、共に素晴らしい。 ○教員は激務と言われている時代に「子どもと向き合う時間が確保されている」との回答が70%なのは、先生方が頑張っておられる様子を感じる。	・5類となり、様々な活動に制限がなくなり、以前のように学校へ来ていただく機会が増えた。今後、実施していく行事や活動の一つ一つを丁寧に。その都度、その様子などの情報をお便り等で伝えていく。
		○作木ふるさと学習の推進・充実	◆生徒アンケートで、「作木に愛着を感じ、誇りに思う」と答える生徒の割合90％以上	・生徒アンケート「作木に愛着を感じ、誇りに思う」の結果 1 とてもあてはまる 71% 2 ややあてはまる 29% 3 あまりあてはまらない 0% 4 まったくあてはまらない 0% 肯定的回答 100%	111%	5	・アンケート結果から達成度は111%であった。目標を大きく上回る結果となった。	A	・今年度より、活動の制限がなくなり、地域の方との関り合いも戻ってきた。今後は、取組の質的向上を図るとともに、生徒への肯定的評価を重ね、作木への愛着・誇りを育てていく。	
		○業務改善の推進	◆職員アンケートの肯定的評価の割合85％以上 ①子供と向き合う時間が確保されている。 ②自分は業務改善を進めることができた。	・「子供と向き合う時間が確保されている」と回答した教員の割合は70%であった。達成度 82 % ・「自分は業務改善を進めることができた」と回答した教員の割合は50%であった。達成度 59 %	71%	3	・目標値の85%には届かなかった。特に業務改善に課題がある。	A	・他の業務に追われ、生徒と直接関わる時間の確保が難しい。業務改善と合わせて考えていきたい。 ・学校衛生委員会を定例的に実施するとともに、機能化を図りながら、教職員の時間外在校時間を縮減する取組を継続していく。	

学校自己評価

5	100％以上	目標を十分達成している
4	80％～100％未満	目標を概ね達成している
3	60％～80％未満	目標をやや下回っている
2	40％～60％未満	目標を下回っている
1	40％未満	目標を大幅に下回っている

学校関係者評価

A	自己評価は適正
B	自己評価は適正でない
C	判断できない